
待受の片思い

秋折紀織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

待受の片思い

【Nコード】

N5862C

【作者名】

秋折紀織

【あらすじ】

そういうお呪いがあるの。好きな人の写メを携帯の待受にして、一月。本人に見つからなければ恋が実るって。何処かで聞いたようなお呪い？気のせいだよ。

(前書き)

たまにはこんなラブソングでも。

「ちよつと待てつて！」

俺のコトなど完璧無視して彼女は歩を進めていた。

「おい！」

場所は学校の廊下。時間は昼休み。もちろん食事を終えた生徒でこつた返している。

そんな中で、一人の女子を追いかける情け無い男子。

まあ、つまりはそんな風に周囲の眼には映っているんだろう……。

それは完全な誤解なワケだが周囲の眼はそんなのわかっちゃくれない。

待受の片思い

「……………つたく……………」

俺はいい加減声をかけるのを諦めて黙って彼女の後をついていった。

着いた先は屋上。屋上とはつまり、行き止まりだ。

これ以上彼女が進む道は無く、これ以上俺が追うべき道も無い。

これでようやく話が出来そうだ。

「おい、匙川さしかわって」

落下防止のフェンスの上で腕を組む彼女の名前を呼んだ。

それでようやく彼女はこちらに振り返ってくれた。

「何、時任ときとう」

声の節々に険が感じられた。おー、怖。

「だから、な。俺はお前に謝ろうと思つてだな……」

「じゃあ謝ればいいじゃない」

匙川はいつになく不機嫌だ。まあ、そりゃ当然と言えば当然……
なのかもしれない。

「……ん。なんか、こう改まるところちとしても言いにくいんだが、
まあいい。」

だからな、さつきお前の携帯開いて悪かった。ごめん」

正直に己の罪状を述べ、素直に頭を下げた。

ようするに、コトの経緯はこうだ。

美術室の机に置き忘れられていた携帯を俺が見つけて、中を開いて持ち主を確認しようとしたんだ。

そしたら、タイミング悪く(?)その携帯の持ち主である匙川が、
忘れたのに気付いて美術室に戻ってきた。

俺が携帯を開いてるのを見て、匙川は「ワァー!」とか「キヤー
ー!」とか「イヤァー!」とか叫びながら俺の手から携帯を奪い取り、
キツと俺を親のカタキみたいに睨みつけて走り去っていった。

正直、俺は何にも悪く無いと思ってるんだが同級生連中に言わせ
れば匙川の携帯だと知らなかった俺が悪いらしい。

それもよく分からない理屈なんだが……やはり多勢に無勢。
多数決には従わないといけない社会だ。

「……まあ、いいんだけどね」

と、先ほどとはうって変わって穏やかな声が返ってきた。
いつもの匙川の声だった。

「そ、そうか……」

「うん、いいよ。許す。私も変にムキになってごめんね」

「いや……別にそんな事は……」

風は凪いでいる。彼女の黒髪は揺れない。不意にもう一度、彼女は背を向けた。

「ねえ、時任」

「ん？」

「待受……見たんでしょ……？」

私ね、それが凄く恥ずかしくてさっきみたいな態度とっちゃった……

…ごめん」

「いや見て無いぞ、待受。

なんかメールが来てたみたいで、『新着メールがあります』みたいなメッセージが表示されてたから。

てかさ、見られて恥ずかしい待受なら、止めとけよ？

待受って見られるためにあるもんじゃないのかと俺は思っただ。

大体、それほどまでに恥ずかしい待受なら携帯を肌身離さず持ち歩くようにしろよ？」

「……………ッ！ 時任の馬鹿あ！！」

その日、俺は……生まれて初めて女の子に『ゲー』で殴られました……。

薄れ行く意識の中、匙川はそのまま屋上から走り去っていった。

気を失う直前に見た光景は、扉に隠れていたクラスメイト全員の姿だった……。

てめえら覗いてやがったな。何で全員口がニヤけてるんだよ。

そして……、 匙川……何故、俺を殴るんだ？

で……後に知ったのだが。

匙川の携帯の待受は俺の写真だったらしい。

何故かそれはクラスの中で、俺以外の連中には周知の事実で、驚くコトに担任まで知っていた。

まあ……ようするにアレだ。やっぱり悪かったのは俺だったってコト。

「おい、実琴」

「なに、勇也？」

「今日も一緒に帰るっぜ。」

(後書き)

どうも、秋折紀織です。

連載は何だか血みどろなので、短編では爽やか純情路線に。物凄く短いので気軽に手軽に読めたのではないでしょうか。

こんな恋がしたいものですね。

感想等いただけると嬉しいです。

ついでに血みどろな戦闘系がお好きでしたら連載中の飽くなき赤色もぜひ。

宣伝みたいだけど、宣伝ですw
では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5862c/>

待受の片思い

2010年11月23日03時27分発行